

令和5年度 第1回伊勢市環境審議会 記録概要

1. 日 時 令和5年7月14日(金) 18:30~20:30
2. 場 所 伊勢市役所 本庁舎東館 5-3会議室
3. 委 員
- |       |                      |
|-------|----------------------|
| 福村 伝史 | (公共の団体：伊勢商工会議所)      |
| 河井 英利 | (公共の団体：伊勢農業協同組合)     |
| 杉田 英男 | (公共の団体：伊勢湾漁業協同組合)    |
| 杉山 謙三 | (公共の団体：伊勢市総連合自治会)    |
| 竜田 和代 | (公共の団体：伊勢市女性団体連絡協議会) |
| 高橋 克彦 | (公共の団体：伊勢市環境会議)      |
| 山村 直紀 | (学識者：三重大学)           |
| 平山 大輔 | (学識者：三重大学)           |
| 中松 豊  | (学識者：皇學館大学)          |
| 松永 彦次 | (神宮司廳)               |
| 奥田 哲也 | (三重県南勢志摩地域活性化局)      |
| 岡野 直高 | (中部電力パワーグリッド株式会社)    |
| 作田 久  | (三重交通株式会社)           |
| 上野 早苗 | (公募)                 |
| 岡本 忠佳 | (公募)                 |
| 田岡 光生 | (公募)                 |

【欠席】

- |        |                  |
|--------|------------------|
| 勝又 ひとみ | (公共の団体：伊勢小俣町商工会) |
| 中村 佳子  | (公共の団体：伊勢市観光協会)  |

- 事務局
- |       |               |
|-------|---------------|
| 藤本 亨  | (副市長)         |
| 大桑 和秀 | (環境生活部 部長)    |
| 山本 佳典 | (環境課 課長)      |
| 角谷 晃  | (環境課 主幹)      |
| 井村 明弘 | (環境課 主幹)      |
| 村田 雄紀 | (環境課温暖化防止推進係) |
| 林 歩   | (ごみ減量課 課長)    |
| 野中 孝彦 | (農林水産課 課長)    |
| 徳田 光良 | (農林水産課 副参事)   |

## 4. 概要

### (1) 開会

### (2) あいさつ（副市長）

### (3) 会長、副会長の選任

会 長：中松 豊（皇學館大学）

副会長：山村 直紀（三重大学）

### (4) 第3期伊勢市環境基本計画の中間見直しの諮問

#### ○事務局より諮問概要説明

- ・ 現在の、第3期伊勢市環境基本計画の計画期間は、令和2年度から令和11年度までの期間を対象とした計画であり、計画年度の中間年である令和6年度に計画の中間見直しを行うこととなっている。
- ・ 伊勢市環境基本条例第8条第6項において準用する同条第3項において「市長は、環境基本計画を定めるにあたってはあらかじめ、伊勢市環境審議会の意見を聴かなければならない」とされていることから審議会へ諮問する。

#### ○副市長より会長に諮問書交付

### (5) 議事

#### ① 第3期伊勢市環境基本計画の進行管理について

#### ○事務局による説明

- ・ 資料1に基づき、第3期伊勢市環境基本計画に掲げる施策の令和4年度の実績と令和5年度の実施内容について、資料2に基づき分野横断的取組の取り組み状況について説明
- ・ 資料3に基づき、第2期伊勢市環境基本計画の重点事業における目標指標の達成状況を提示

#### ○質問・意見等

- ・ 基本目標2「資源を大切に作る循環型社会の構築」の5ページ。こちらの3Rの推進のところで、食品ロスに関係のタベスケというシステムが始まったところであるが、自分もそれを利用して出店者がなく、なかなか進まないと同様。利用するにも利用できない状況があるので、その辺りを何かありましたらお願いしたい。

⇒食品ロスを減らすため、店の売れ残りの商品・食品を廃棄せず、利用者に使ってもらおうということで、「タベスケ」を始めた。始めた頃は出店者の協力も得たところだが、協力の出店回りを進めており、出店数が増えてくるような啓発をしていきたい。また、お店側がシステム上で登録する手間暇がかかると

ころがあると思っており、システムを作成した業者とも手続きが緩和されるような工夫をしながら、これから詰めていきたい。

現在、協力店舗が17店舗で、始まってから増加傾向ではなく、停滞しているところもあるため、啓発により少しでも多くの店舗が増えてくるように努力させてもらいたいと思う。【事務局】

- 進めていただくときに、他の市町村の例とかもあったりするのも、見ていただいたりしたり、私も今まで知らなかったお店に出会えて、ファンになってしまったということもあるので、新たな顧客にもつながるということを、宣伝していただいて進めていただけるよう、お願いしたい。

⇒県下では数市が取り組んでおり、我々と同じような状況というのが実態。特に伊勢だと、近隣にスーパーがあったり、コンビニがあったりということで、生活に便利なところがあり、ユーザーが飛びつくような状況がなかったのかなと思っている。県外だと姫路市が成功している様子であり、うまくいっている例もあるため、そういったところをいろいろ研究させてもらいたい。【事務局】

- 外城田川の河口に一発肥料の容器が波打ち際にもものすごい量であった。マイクプラスチックが一番多いのは一発肥料ではないかなと思う。一発肥料が将来的にも続けられるかどうか、全くそれを処分性のプラスチックに変えるのか、農協さんもお見えになっているので、具体的に例として、どのように取組んでいるのか、お答えいただきたい。

⇒JAでも問題意識は十分持っている。昨年度についても、一発肥料に代わる、肥料の試験を始めている。一昨年ぐらいから始めて、それほど収量を落とさずに、肥効期間も今のプラスチックを使った肥料と遜色ないぐらいの効果はあるかなというところまで試験的に来ている。プラスチックを使った肥料が多いが、海や河口に流れると、多分10年以上残る。新しいタイプで2年ぐらいで溶けていくだろうということで、今、試験をされている。基本的には、海や川を汚さない肥料に変えていかなければいけないという意識は、売手としてはあるが、農家さんが夏の暑い時期に追肥をやるのは、高齢化もあり無理だということで、ただ、代わりの肥料を企業にお願いして、全農や国もそういう動きは十分あるので、そういった方向に変更していく対応は出ているが、すぐにちゃんとしたものが出来てないというのが現状。

- 今回、初めて参加させていただき、たくさんを取組をされているということ、ほとんど私どもは知らなかった。例えばエネルギーであったり、二酸化炭素の削減率を、こういった取組をしてどれだけ削減したかというのを、最終的には数値化して何%削減したかを出していくのか知りたい。

たくさんの良いことをされているのに、ほとんどの市民がこういう活動をやっ

ていることを、あまり知られていないのかなと思うが、何か取組をされているのか。その2点お願いしたい。

⇒1点目のCO<sub>2</sub>削減量について、どれだけ減らしていったかを出していくのかというご質問。CO<sub>2</sub>の削減については昨今、脱炭素社会の実現ということで非常に注目をされており、伊勢市としても環境基本計画の中で、伊勢市地球温暖化防止実行計画を策定している。その中で、伊勢市全域からのCO<sub>2</sub>排出量を、目標を挙げて今後見ていこうということを計画であげており、また事務事業編とあって、市役所の事業活動から排出されるCO<sub>2</sub>をどれだけ減らしていくかというところで、2030年までに50%減らしていく目標値を掲げながら、取組を進めている。このCO<sub>2</sub>の現状について、本日は資料として用意していないが、今後、2030年を一つの目標にしながら数値の管理を行い、審議会でも提示させていただけたらと考えている。

もう1点、様々な取組をしている中で、市民の皆さんに知られていないということについては、私どもの周知不足で、反省するところがある。広報紙を通じて、様々な環境への取組を市民の皆さんに紹介したり、ケーブルテレビ、各種イベントなどで周知させていただきたい。これまで、なかなか周知が行き届いていないというところもあるので、反省を生かしながら、今後の情報発信を努めていきたい。【事務局】

- 資料2の地産地消のところ、三重県がアピールするものを見直し、県として登録してPRしていきたいということを、この間、ニュースでやっていた。伊勢市のここに載っているものについては、どんな扱いとなっているのか。県ともコミュニケーションが取れているのか、ご説明いただきたい。

⇒三重県とのつながりですが、地産地消については、例えば、食育という面で、三重県の朝食コンテストがあり、子供たちに、地元のものを使って、コンクール形式でみんなに周知していくというものがある。伊勢市でも多くの生徒さんからお申込みいただいているが、そこで、せっかく考えたのに選に漏れているのもったいないということで、伊勢市でも、特にそういった地産地消、また三重県のコンテストは三重県産の食材を使用するというものだが、伊勢市の場合にはさらに、伊勢市の産物を使ったものに高得点をあげるなど、PRをしている。連携というよりは裾野を広げているような活動をしている。【事務局】

- 14ページの「良好な景観の形成」のところ。私の住んでいるところで、景観形成で多分、補助金を出しているが、黄色と緑色に近い形での申請があった。「危ないなあ」と思っていたら、2ヶ月もしないうちに、業者がやり直した。進行管理を「ホームページでやった」とか、「これでやっている」ではなく、もう少しきめ細かくやっていただいたら、このようなミスはなかったのではないかと。プロでもそういう誤りをするので、もう少し我々の視点に立って行政を進めていただ

ければありがたい。

もう1つは、9ページの「水環境の保全」のところで、下水道建設と環境とのからみの部分。上の方（公共下水道事業の整備推進）は、流域関連公共下水道の中の整備という、いわゆる事業計画は決まっていると思う。その下の合併浄化槽と、その辺りの住み分けをしっかりとしないといけない。上の方（公共下水道事業の整備推進）のところで、計画の中で、前まで幹線が迎えに行っても汲み取り式の所がある。これもやっぱりまずいし、逆に新しく建てたところで、合併でいくのか、その辺をしっかりとしないといけない。「実は計画に入っている」といったミスのないように、進行管理のPRをもう少しやっていただけたら。

⇒1点は、景観形成を図る上で、事業者が途中までやってみただけ、条例の中で引っ掛かってやり直しをしたということがあり、こういったことは周知が徹底できていないのではないかという意味でとらえた。例えば大きな音を出すような機械を使うときは、騒音規制になったり、騒音や振動の届出があったりするるので、気づける範囲でお声がけをさせていただいたりするが、景観の方は及んでいないところがある。建築部署とも連携して、お伝えできるチャンスがあれば、何とか対応していきたい。

2点目が、下水道整備をしているときに、目の前まで下水道が来ているとか、間もなく下水道が来るのに浄化槽を付れたり、下水道整備をしたのに、まだ汲み取りが残っているというお話の中で、計画どおり進められるように対応するように、という御意見だったと考える。私たちも、下水道部門と情報共有をしているので、例えば、下水道が間もなく来る所だと、浄化槽の設置届を出す前に、「間もなく下水道が来ますが、本当によろしいですか」と、声かけをさせていただいているが、新築だと完成の日が優先されて「もう浄化槽でいいです」と、1年後に下水道が来るけど「浄化槽でいい」という御意見のほうが多いのが現状。その場合は、浄化槽の補助金も出るので、「下水道が来たらすぐになくように」との誓約書を書いていただいていたところで、下水道施策と浄化槽の連携を取っている。【事務局】

・資料1の評価欄にA B C Dがあるが、これに違和感がある。例えば、13ページの一番上を見ると、公共の場所に自動車が放置されていなかったから撤去できず、実施していないから「D」ということだが、放置自動車がないというのは非常に良いことで、そういう意識の高い人ばかりということなので、この施策はもう終わりにしてもいいぐらいで、非常に良い評価だが、この指標でいくと「D」ということになってしまうので、違う視点からの評価もあっていいのかなと思う。逆に、浸水対策のところは、事業をしているので、「A」評価で良いのだが、6月2日の大雨のときに、道路がすごい浸水したので、市全体の浸水対策としては、「Aでやっている」というよりも、もっと強化していただいた方がいい感じなので、これは、施策を実施したかどうかというA B C Dの指標なので、これはこれとして、全体の目標に対してどれぐらい進んでいるかという意味での指標、

達成度、そういったものが、あった方がいいかなと思った。そういう目で見えていくと、例えば、1ページの一番上の小学校への太陽光発電設置では、全校で何校あるうちの何校できているとか、道路照明をLED化していくなら、全体のうち何%ぐらいLED化されているとか、電線の地中化もそうだと思うが、全体に対する進捗度で指標があれば、施策の推進、達成度とか分かりやすいと思う。あと、電気自動車の指針はあるが、日産のサクラとか、1年待ちぐらいの人気だということで、こういったものも、トヨタや日産に任せておけば、あまり市の事業として、そこまで考えなくていいのかなと思うので、そういう全体の目標に対して、どこまで進んでいるかという視点を加えていただければありがたいかなと思う。

⇒まず、放置自動車の件は、機械的に見てしまっていたので、改めたいと思う。あと、全体としては、その項目に対して、全体の目線を入れて、例えば、先ほど電気自動車の例をいただいたが、違う視点で評価をしていたとしても、取組の言葉の中で補えば、全体として統一できるかと思うので、いただいたご意見を反映するために、修正したいと思う。【事務局】

• 13ページの1番上の段、公共トイレの整備等で42か所整備されたとあるが、これは維持課の関係。学校におけるトイレに関し、小学校では和式がいまだに残っている。家では洋式トイレで快適な生活をしているけれど、学校へ出ていくと和式トイレが残っている。1年生は、座って出来ないということもあると思うので、現在の状況、学校全体の状況はどうか。たぶん和式の方が多いと思うが、子どもたちはギャップを感じると思う。教育委員会の関係につながると思うが、将来的に市の予算として、学校全体を洋式に変える計画があるのかお聞きしたい。

⇒方向性までは把握していないので、また次回、回答させていただくか、文書で回答したいと思う。【事務局】

• 基本目標3の自然環境の部分。外来種が今とても取り上げられている。アメリカザリガニやミシシippアカミミガメが特定外来種として大々的に問題になっているが、まだ伊勢市ではそれほど広がりはないと思われる植物のオオキンケイギクというものがある。そちらの方も特定外来種になっているが、市民があまりにも周知しておらず、きれいだと持って帰る人もいる。住宅の側とか道路の斜面とかはどこの管轄かも分からない。一昔前のセイタカアワダチソウのように、全国的にひどくなる前に、1、2年ぐらい集中して、市民の方に知っていただいて、それが特定外来種なので増えてしまったら大変なことになるということを周知する活動をしていただいたらどうかと思う。

⇒生き物や植物については、それぞれ所有者がいるので、直接どうするということが難しい状況がある。委員おっしゃられるように、行政のやることは、と

にかく啓発を強化するということが重要だと思っている。広報いせでも生物多様性の記事を書かせさせていただき、地道に活動しているので、周知を引き続きやっていきたいと思う。【事務局】

- 東大淀でオオキンケイギクの駆除活動をされていたと思うが。

⇒6年間続けて絶滅した。続けることが大事であり、集中的に継続して取り組まないとオオキンケイギクは駄目である。

- 全国的にオオキンケイギクの除去はどうなっているか。

⇒全国的な除去の進捗状況については把握していない。ここに来る途中の車道脇にもあるので、難しいことは難しい。きれいだなと思って植えちゃったりする方が、未だにいるので。だから、さっきおっしゃったように、しっかり知っていただくことは大切。県でも、クリアホルダーなどに載せて、「こういうのは駄目ですよ」と言ったりしているが、それだけでは伝わっていない面もある。普通に今まで植えられていたものでもあるので、「何で？」という方も多い。しかし、このように生態系に悪影響を及ぼす、今のところリスクの高いと言われているものは植えないように、それから、なるべく取るように、と啓発をしていくしかないのかなと思う。伊勢市で今、何か追加でされる予定はあるのか。

⇒サンアリーナの法面にも咲いていると思う。以前は、法面保護のためにわざと植えたという経緯があり、あの辺は大変多い。ただ、そういった生物に指定されてからは、市の法面については、いつも4月、5月前ぐらいに抜根している。そうすると、そのエリアはかなり減る。しかし、先ほどのように壊滅出来ないということは、そこだけやっても、その周りに吹けてきたりするものもあるので、みんなで啓発をしながら、全体で壊滅していかないといけないと思う。

【事務局】

⇒委員が言われたように、各地域で長年かけて取り組むと、ほぼなくなるという話。地域を挙げて取り組まなければ、なかなか難しいと思う。小笠原にグリーンアノールというきれいなトカゲがいるが、島の名物にしようとパンフレットにも載せたが、1回増えるとなかなか減らない。オオキンケイギクも自分の家で、きれいだから栽培するというところから広がっていて、人の気持ちに一回入ったものはなかなか打破できない、ということもあるので、全員で徹底していくしかないと思う。

② 第3期伊勢市環境基本計画の中間見直し及び市民等の意識調査について

○事務局による説明

- ・ 資料4に基づき第3期伊勢市環境基本計画の中間見直しの進め方・方向性について、資料5に基づいて市民等の意識調査実施計画（案）について、資料6に基づいてアンケート調査票（市民用・大学生用）について、資料7に基づいてアンケート調査票（事業所用）について、資料8に基づいて令和元年度アンケート調査結果（第3期伊勢市環境基本計画策定時）について説明

○質問・意見等

- ・ アンケートの文面で、「お伺いします」というのは二重敬語になる。「伺います」自体が謙譲語になる。それだったら「お聞きします」や「お訊ねします」の方がいいのでは。今回変えられる方がいいのではと思う。
- ・ 市民・大学生用の9ページ、「伊勢市の環境に関する取組について」ということで、問12では「どんなまちになればよいか」ということを3つ選んでもらうことになっている。これはいいと思うが、問13で「伊勢市が重点的に取り組むべき分野」について3つ選んでもらう形になっていて、これだと問12と13で、違いが出たりしないというか、あまり問13の意味がないのではないかなという気がする。何が言いたいかという、市民に自由に記述してもらう設問があまりないので、問13が「重点的に今後どんなふうに取り組んだらいいか」という、むしろ、自由記述でアイデアを書いてもらうようにすると、私たちが考えていないようなアイデアが得られるかもしれないので、問13を自由記述でアイデアを聞くようにすれば、もっといい質問になるのではないかと思う。

⇒修正を検討したいと思う。【事務局】

- ・ 市民・大学生用アンケートの9ページ、問12の17のところ、「高齢者や障がい者にやさしいまち」というところがあるが、このあたりを子育てにもやさしいまちになっているかどうかということも、一言入れるのはどうか。

もう一つ、市民アンケートで、居住年数が短い方か長くみえる方かというところがあるが、移住者がお見えになった時に、移住者の方は他の地域を知っているということで、伊勢と比較してくれる。客観的に今まで私たちが分からなかったものに視点を当ててくれることがあると思うので、集計するとき、居住が長い方と、最近変わってきたばかりの方とを比較できる集計の仕方も、されたらいいかと感じた。

⇒「高齢者や障がい者にやさしい」というところは、計画書の中で「快適で美しい住環境の保全」というところがあり、バリアフリー・ユニバーサルデザインということに関連して聞かせていただいている。おっしゃるように、バリアフリー・ユニバーサルデザインというと、高齢者、障がい者だけではないとこ



ろもあるので、御意見いただいたことも踏まえて、選択肢を検討していきたいと思う。

もう1点、居住年数によるところは、クロス集計で、居住年数によって、伊勢への思いがどのように違うかということも出せるかと思うので、そういった出し方もできればと思う。【事務局】

- ジェンダーレス社会と言われる時代に、「男性」、「女性」、「その他」と書く必要があるのか。なくしてもいいのではないか。

⇒他のアンケートも見て検討したいと思う。【事務局】

- 事業所向けアンケートの問19で、「三重県公害防止条例」は平成12年に「生活環境保全条例」に変わっている。あと、「その他」に何を想定しているのか分からないが、何か書いておいてあげればと思う。ダイオキシンなのか、何なのか。

⇒条例名については変更する。「その他」の部分については、前回のアンケートと同じような形で挙げさせていただいた経緯もあるため、他にどのようなものがあるか調べさせていただいた上で、書いていきたいと思う。【事務局】

- 先日、ニュースの中で伊勢市は泊まる客がいないと言っていた。伊勢市は、食べ物もいろんなものもあるようには、なっちはいるかも分からないが、観光面の問いかけも、観光都市として、そういう面も考えてはどうか。

⇒環境基本条例の環境に関する基本的な事項というのは幅広い内容になっている。観光の方でも、それぞれの分野でアンケートを実施しているので、類似するものがなければ、この中に盛り込む方向で検討したいと思う。【事務局】

- 問12から14は、ほとんど同じことを聞いていると思う。問12は伊勢市がどういうまちを目指したいかで、問13は重点的に取り組む課題というのがある。問14になると、その課題の重さが1から5で書かせることになっていて、基本的にどれも同じことを聞いているが、それぞれの区分けの表現が微妙に違う。例えば、問12で、「9. イノシシ・アライグマ等の…」というのを重点的にし、これがないうまちにしたいなと思ったときに、問13はどこに付ければいいのか、「3.」なのか「4.」なのか、悩む気がする。問14でそれを重要にしたいのだけど、どこを重要にすればいいかということ考えたときに、困るかもしれない。それぞれの問いの分野というか、言葉の使い方、説明が微妙に異なっていることが、付ける人が悩んでしまうなというように思った。

もう一つは、500を目途というような言い方をしているが、人口からして、500だとあまりにも少なくないか。当初、1,000ぐらい送るという話だったが、それすら少ない。2万人いるのであれば、2万人に直接送ったらいいのではないかと

思う。少なくともオンラインである人であれば全員に送る。元々、答えてくれる人は、興味のある人か、文句のある人かどちらかだと思う。なので、母数が少なくなるほど、極端な意見になりがちで、2分する可能性があるのも、できる限り無作為に近くなるように、人数は極力、可能な限り増やしてほしいと思う。

⇒送る先は、伊勢市のLINEに2万人が登録されていて、一斉に送信するので、2万人全員にアンケートが送られる。企画部局が行っているアンケートの結果だと、2万人に送るものの、回答が返ってくるのが1,300件、1,400件、というような状況になっている。このアンケートについては、2万人全員に送らせていただき、それだけではなく、広報紙に掲載させていただき、LINEに登録していない方でも、環境に興味のある方については、広報を読み取って回答いただけるというような形で進めていく予定。企画のアンケートのように1,000件ぐらい回答が得られればいいかと思うが、どの程度回答いただくかは分からない部分もあるので、見守っていきたいと思う。問12から14の部分の設問の整理については、課題として持ち帰らせていただき、検討させていただきたいと思う。【事務局】

- 宮川の河口が、豊浜から大湊の方まで歩いて渡れるような状態になっているのは、市民の方々はほとんど知らないと思う。今まで、人が歩いて渡れるということはなかった。これは自然環境の影響が大きい。最近、吹上の方で水が浸いたということが言われるが、水位が上がっているから、水も浸くということになる。そういうことに対する問いも必要になるのではないかと思う。海の水の流れが悪いので、外洋の温かい水が伊勢湾の中に入ってくる。これは、全部環境が変わってくることになる。そういう内容も含めて、市民に知らせる方法も一つはあってもいいのかなと思う。私からの提案だが、やるかどうかは伊勢市の判断にお任せする。

⇒今の課題については、環境基本計画のアンケートの中では難しいという感触を持っている。生活排水などの他の計画も関連して環境課で担当しているので、そちらで検討できればと思う。【事務局】

## (6) その他

委員より環境に関する資料をご提供いただいた。